

令和5年度 宝塚市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 地域にある様々な見守り資源・ネットワークの強化と深化
 - withコロナの状況での啓発活動の開発と実践

報告者氏名: 藤原 菜月, 重山 智子, 辻 貴美
秋元 瑞穂, 片山 梨紗, 外堀 佳代

宝塚市 認知症施策 全体図

認知症の人とその家族 への支援

- * 認知症カフェの活動支援
- * 認知症の当事者・家族の思いや声を発信できる機会・場の充実
- * 認知症の当事者・家族と介護関係者の情報交換の場づくり
- * 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施

普及・啓発の推進

- * 認知症サポーターの養成と活動の場づくり
- * ステップアップサポーターの養成と活動の場づくり
- * 小中学校、高校での認知症サポーター養成講座の実施
- * 関係機関との協働での普及・啓発に対する取り組みの推進

適時・適切な医療・ 介護等の提供

- * いきいき百歳体操の普及推進
- * ふれあいいきいきサロン活動への助成
- * 認知症初期集中支援チームの活動促進
- * 介護保険事業計画に基づく介護サービス基盤の整備
- * 認知症ケアパスの積極的活用
- * 阪神圏域認知症疾患医療センターとの連携の推進

認知症の人やその家族 の視点の重視

高齢者にやさしい 地域づくりの推進

- * エイジフレンドリーシティ行動計画に基づく取り組みの検討
- * たからづか地域見守り隊活動（宝塚市社会福祉協議会）との協働
- * 宝塚市認知症高齢者等みまもり登録の活用
- * 宝塚警察署との連携強化
- * 高齢者の権利擁護に対する取組の推進

若年性認知症施策の強化

- * 障害福祉課、障害福祉関連事業所等との連携強化
- * ひょうご若年性認知症支援センターとの連携強化

withコロナの中での“つなかいづくり”と“つながりの強化”（宝塚市）

昨年度に引き続き、コロナ禍の中で弱まったつながりの強化、途切れたつながりの再構築、新しくできたつながりの維持など、“つながり”を共通テーマに活動を行いました。

①もの忘れ相談シートの作成

昨年度は、服薬が適切にできていない高齢者がいるという課題を解決するため、薬剤師会との連携に取り組んだ。今年度、まずは受診に関する課題や現状を整理。

- かかりつけ医は、認知症をどの程度理解しているのか？
- 認知症の方を支援していく中で、精神科を受診したほうがいいと支援者が考えても、うまくつながらないケースがある。
- かかりつけ医に精神科への紹介状を依頼するが、うまくいかない。
- かかりつけ医との情報共有がうまくいかない。
- かかりつけ医の中には、認知症疾患医療センターを知らない医師がいる。



各地域で連携のとりやすい医療機関を整理、情報共有。「なんで連携がとりやすいと感じるのかなあ？」

認知症の方の受診について、

なぜ受診に至らないのか、受診につながらず困っていることをケアマネにも情報収集。

具体的には…

本人が困っていない/家族とケアマネの認識のズレ/精神科に対するマイナスのイメージ/かかりつけ医とのコミュニケーション不足 など

? 認知症のご本人やご家族の困りごと、起きている問題を主治医やかかりつけ医に知ってもらうにはどうしたらよいか?

認知症によって日常生活が困難になっていることを、ご家族やケアマネが主治医に確実に伝えるにはどうしたらよいか?

かかりつけ医との情報共有をスムーズに行うには、どうしたらよいか?



近隣の認知症疾患医療センター等の問診票を参考に、「もの忘れ相談シート」を作成、ご本人やご家族が、受診時に医師へ伝えたいことをスムーズに伝えられ、また、伝えもれをなくすことをめざす!



医師の反応は・・・



連携先がすぐにわかるから助かる!

聞きたいことはこっちで聞くから、必要ない!

医療介護連携もっとがんばります!



! 受診の際、生活の困りごとを家族は医師に伝えきれていないことが多くある。

! 生活の様子を医師は知らないことがある。認定調査員と主治医意見書で見解が大きく異なる。

! 受診の際は時間も限られており、困りごとを整理して伝えることが困難なのは?

もの忘れ相談シート		記入日	
ふりがな	男 女	年 月 日	年 月 日
氏名		明治・大正・昭和 年 月 日(歳)	
あてはまる番号に○をつけてください。また、最初に気づいたものには◎をつけてください。			
1 人や物の名前が出てこない		13 昼夜逆転している	
2 物をよく置き忘れる		14 トイレの後始末ができない	
3 約束や予約をよく忘れる		15 幻覚や妄想がある	
4 仕事や生活に支障をきたしている		16 物・お金を盗られたと言う	
5 見慣れた道で迷う、迷子になったことがある		17 暴言・暴力で困る	
6 銀行・郵便局の金銭管理ができない		18 怒りっぽくなった	
7 食事の献立・調理・配膳に支障がある		19 興味や関心がなくなった	
8 一人では買い物ができない		20 徘徊がある	
9 季節・場所に適した洋服を選ぶことができない		21 尿や便を失禁する	
10 電話やリモコンが使えない		22 言葉がうまく話せない	
11 整理整頓ができなくなった		23 歩き方が変わった、よく転ぶ	
12 着替えや入浴を忘れる・嫌がる		24 よく寝言を言う、寝ながら暴れることがある	
おかしいな、変だなと気づいたのは、いつ頃ですか。 年 月 頃から ● ほっきりわからない ● 急に悪くなった			
あてはまるものに○をつけてください。			
睡眠	● 眠れる ● 眠れない ● 睡眠薬使用 (薬の名前)		
喫煙	● なし ● あり (1日に 本)		
飲酒	● なし ● 時々 ● 毎日 種類… 量…		
運転について	● 運転している ● 運転しない ● 運転免許証を返納した		
その他、気になること、相談したいことをお書きください。			
現在誰と一緒に生活していますか。また、介護を受けている場合、主たる介護者に◎をつけてください。 ● 妻・夫・息子・娘・孫・その他()と同居 ● 一人暮らし ● 施設に入所中 施設名()			
家族は介護についてどのように考えていますか。 ● 今のところ介護は必要ないと思う ● 家族で介護しようと思っている ● 家族での介護は無理だと思う			
介護認定	○で囲んでください。 ● 申請していない ● 申請中		
利用中の介護サービス	○で囲んでください。 ● デイサービス ● ショートステイ ● ホームヘルパー ● 訪問看護 ● その他 ()		
ケアマネジャー	名前() 事業所名() 電話番号() *返信は不要です。		

② 歯科へのアプローチ

- ・ 認知症の人への対応で、歯科で困っていることはないか？
 想定される困りごと…予約していないのに来院する・医師の指示が伝わらない・
 お金のやりとりが難しい など
- ・ 歯科医院の認知症に関する関心度は？
- ・ 地域包括支援センターについてどの程度知られているのか？



歯科へアプローチするため、
チラシをつくろう！

今後は

歯科での困りごと（具体例）を
掲載したチラシ、薬局や病院に
向けたチラシを作製し配布して
いく。

医療介護連携さらにかんばります！

予約日時を何度も
まちがえる

足腰が弱って移動が大変
診療台に乗りづらそう

支払いがうまく
できない

このような患者さんはいらっしゃいませんか？

お気づきのときには 高齢者の総合相談窓口

地域包括支援センターへ

繰り返し説明
しても伝わらない

言葉がスムーズ
に出てこない

家族に必要な連絡
がとれない

名称(所在地)	電話/ファクス	担当地域(小学校区)
小林地域包括支援センター (光明町)	Tel 74-3863 Fax 74-3922	良元、仁川、末成、光明、 高野、末広の一部
逆瀬川地域包括支援センター (中洲1丁目)	Tel 76-2830 Fax 77-3461	宝塚第一、西山、逆瀬台、 末広(一部を除く)
御殿山地域包括支援センター (御殿山2丁目)	Tel 83-1336 Fax 83-1337	宝塚、すみれ町丘、赤布(一部を 除く)、美登の一部
小浜地域包括支援センター (小浜4丁目)	Tel 86-3707 Fax 83-1123	小浜、美座(一部を除く)、 安倉、安倉北(一部を除く)
長尾地域包括支援センター (山本東2丁目)	Tel 80-2941 Fax 80-4110	長尾(一部を除く)、長尾南、丸堀 赤布の一部、安倉北の一部
花屋敷地域包括支援センター (切畑字長尾山)	Tel 072-740-3555 Fax 072-740-5087	長尾台、中山台、山手台、長尾の 一部
西谷地域包括支援センター (大原野字南穴虫)	Tel 83-5080 Fax 91-1300	西谷

宝塚市高齢福祉課 0797-77-0505

③ステップアップサポーター養成講座

【プログラム】昨年度と同内容で実施。



	内容
第1回 「知る」	<ul style="list-style-type: none">・講義とワーク「認知症の人の心と関わり方」・認知症の人と家族のお話・実習についてのオリエンテーション
第2回 「体感する」	<ul style="list-style-type: none">・体験実習・実習振り返りシートの記入
第3回 「深める」	<ul style="list-style-type: none">・グループワーク「体験実習の振り返り」・実践報告・グループワーク「できる事から始めよう」

【参加者】15名

【第2回 実習場所】

一般デイ、認知症対応型デイ、
グループホーム、オレンジカフェ

【第3回 実習報告】

地域活動について、
ふれあいいきいきサロンの紹介
オレンジカフェの紹介
いきいき百歳体操と包括の紹介

【第3回 グループワークで出された意見等】

体験実習の振り返り

- ・スタッフの方々が、一人一人の性格に合わせて声かけをされており、穏やかに過ごされていた。
- ・声のかけ方が難しかった。

できることから始めよう

- ・ご近所でも、知らない方もいるため、挨拶をするよう心掛けていきたい。
- ・オレンジカフェに参加していきたい。

来年度に向けて

- ・認知症サポーター養成講座を充実させ、ステップアップサポーター養成講座の受講につなげていく。
- ・終了後、活動できている方は少ないため、実際の活動につなぐ方法を模索する。

④ステップアップサポーター交流会

- 〈目的〉
- ・活動を継続していくための情報を共有することができる。
 - ・さらなる学びや活動意欲の向上につなげる。
 - ・活動したい方と活動できる場がつながる機会をつくる。

「回想・思い出おしゃべりサロン」

令和5年9月20日(水) 13時30分～15時30分
*「Dクラブ赤ずきんちゃん」代表の宮本氏のお話
*回想カード(グループワーク)

「人生100年時代に備える ～成年後見制度の実際のお話～」

令和5年3月4日(月) 13時30分～15時00分
*司法書士による成年後見制度のお話
*ステップアップサポーターの活動紹介

⑤オレンジカフェ交流会

令和5年12月12日、カフェの代表の方たちが日ごろ感じていることや、みなさんと共有したいことを意見交換しました。



- ・ゆったりと流れる時間の中で話をするを大切にしている
- ・ご家族は日々の思いを話しに来てくださる
- ・パーテーションをなくし、和気あいあいと話をして嬉しかった
- ・利用者が、カフェ参加を通して別の地域活動へ仲間入りする等、広がりがあった



～1か所だけでなく、複数のカフェを利用するスタイルへ～

月1度の開催が少ないと感じる利用者も多いそう・・・。決まったカフェだけでなく、複数のカフェに足を運んでいただくスタイルが浸透するよう、カフェ同士おたがいの魅力を知り、市内カフェ全体を盛り立てていこうと、方向性を共有しました。

⑥令和5年度 第1回認知症地域包括ケア推進研修

宝塚市の認知症地域支援推進員活動について報告。

「常にチームで活動しているのがめずらしい」ということからお声がけいただき、2名で報告を行った。

めざましい成果が出ているわけではないものの、活動の過程に注目していただけたことはありがたく、日々の活動を客観的にとらえられる貴重な機会となった。



最後に…

これまで、コロナ禍での活動であったこともあり、認知症の人のしたいことの実現や、心地よく過ごすために何が必要かを考え取り組むことの大切さと難しさを感じてきた。

チームでの活動という強みを最大限に活かしながら、認知症があってもなくても暮らしやすい地域づくりに、これからも継続して取り組んでいきたい。

